

電子メールの世界

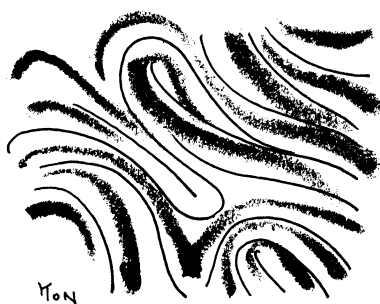
電子メールとはどんなメディアなのだろうか…

富田英典

佛敎大学社会学部敎授

●はじめに：「メル友の自殺を救う 神奈川の女性が山形県警に緊急通報」

山形県内の四〇歳代の男性から、神奈川県内の三〇歳代の「メル友」の女性に「今から自殺する」という内容のメールがパソコンで送られ、女性から通報を受けた山形県警が、乗用車にホースを引き込んで排ガス



自殺しようとしていた男性を間一髪で救出していたことが七日、わかった。（中略）二人はメールを交換するだけで、面識はない。県警からの電話で救助の知らせを受けた女性は「助けてくれてありがとう。死んでしまうと思った」と話していたという。

〔朝日新聞ニュース ニュース 二〇〇一／四／〇八 〇七：四七〕

一通の電子メールが、一人の男性の命を救った。遠く離れた二人は電子メールだけでつながるいわゆる「メル友」だった。会ったこともない電子メールを交換するだけの男性の言葉を信じ警察に通報し、死の淵から彼を救った彼女の行動を私たちは理解できるだろうか。

電子メールとはどんなメディアなのだろうか。これまでの手紙や電話などどこが違うのだろうか。本稿では、電子メールというメディアの特性を紹介しながら、現代社会にどのような変化を生み出しているかを考えてみたい。

では、まず最初に電子メールが世間にどのような印象を与えているかを考えてみよう。

●電子メールは危険なメディアか

冒頭で紹介した事件が発生したちょうど同じ頃、京都では女子大生が携帯電話のメールで知り合った男性に殺害される事件が発生していた。新聞報道によると、五月十五日に逮捕された男性は、その間にも複数の女性に被害を加え、その中の一人を殺害していた。さらに、茨城県で四月二十三日、二十八歳の主婦が十八歳の少年に刺され、死亡した事件が発生した。容疑者は、インターネットの出会い系サ

イトで知り合った少年だった。各テレビ局はこれらをいっせいに「メル友殺人事件」として大きく報じた。

ほぼ同時に発生した三つの事件だが、取り上げ方は後の二つの事件の方が大きかった。その理由のひとつには、殺人事件と人命救助という事件の性格の違いがある。しかし、取り上げ方に注目する必要はないだろうか。これまでも、新しいメディアに関連する事件では、メディアを事件の犯人に仕立て上げる傾向が強かった。「メル友殺人事件」でも、電子メール利用が生み出す危険性に関心が集まった。しかし、私たちは、包丁で人が刺されても包丁が悪いとは言わない。私たちが問題にしなければならないのは、なぜ電子メールの場合は、それが手段ではなく、それを利用した結果として、事件が発生したと世間の人々は考えてしまうのかという点である。そこには、電子メールという新しいメディアに対する世間の誤解や無理解が少なからず存在していると思われる。それらを防ぐためにも、電子メールとは何か、その特性とは何かを再度確認することが大切であると思われる。

●電子メールとは何か

現代社会がペーパーレスへと移行する中で、オフィスでは、社内文書、伝票や請求書、納品書などが電子メールに代わりつつある。「インターネット白書二〇〇〇」(監修…日本インターネット協会/発行…インプレス)によれば、コンピュータを利用しての事業所を対象に行なった調査では、九二・八%がインターネット技術を「利用中」と回答し、五千人以上の大企業では一〇〇%に達したという。さらに、利用内容については、「電子メール」が九九・一%、「ウェブからの情報収集」が九七・二%と高い数字を示したという。また、社員へのメールアカウント発行比率では「一〇〇%以上」とした企業が四五・四%に達していた。

電子メールは、手紙に比べて相手にメッセージが届くスピードは速く、世界中どこにでも一瞬のうちに届く。しかも、料金は無料である(ただし、プロバイダ接続料やプロバイダへの電話代は必要)。平成十二年版「通信白書」によれば、一日に一〜二回メールの送受信をしているひとは、利用者中約半数に達している。電子メールは、もはや特別な通信手段ではなくなりつつある。

電子メールを利用するためには、インターネットに接続できる環境が必要である。同時に、メールソフトの設定が必要になる。どのような環境で、どんなメールソフトを利

用するかで電子メールのタイプが異なる。

【電子メールのタイプ】

通常、インターネットに接続するためにはインターネット・プロバイダに契約することになる。契約するとメールやWWWを利用するためにアカウント(ユーザーIDとパスワード)がもらえ、自分専用のメールアドレスとホームページが使えるようになる。これが、まず第一のタイプである。このタイプの電子メールの場合は、自分専用のパソコンから電話回線などを利用して契約したプロバイダに接続し、電子メールの送受信を行う。

第二のタイプは、ウェブ・メールである。通常、契約しているプロバイダからもらえるメールアドレスはひとつである。しかし、職場のアドレスのほかにプライベートのアドレスが欲しい場合や、相手によってアドレスを使い分けたい場合もある。また、家族で一人ひとりにアドレスが欲しい時もある。そんな場合に、ウェブ・メールが利用される。ウェブ・メールの多くは無料であり、一般的にはメールに広告が入っている。この場合は、そのプロバイダのホームページを画面に表示してIDとパスワードを入力し、電

子メールの送受信を行う。

第三のタイプは、携帯電話やPHSなどの移動電話を利用した電子メールである。近年、ほとんどの移動電話で電子メールが利用可能となっている。ただし、送受信できる文字数に制限がある。

このように、電子メールは三つのタイプに大別される。

これらのタイプの電子メールは、相互にメールの交換が可能である。しかし、それぞれに長所と短所がある。たとえば、第一のタイプでは、電子メールはすべて自分専用のコンピュータに保存されるため、インターネットにアクセスせずに保存されたメールを読むことができる。それに対して、第二のタイプでは、電子メールはプロバイダのコンピュータに保存されているために、インターネットに接続していないときには保存したメールを読むことはできない。

ただ、この両者の長所と短所は、見方をかえると逆転する。なぜなら、第一のタイプは、自分専用のコンピュータからインターネットにアクセスする必要があるために、自宅やオフィス以外で利用する場合は、移動可能なコンピュータが必要になる。それに対して、第二のタイプは、インターネットに接続されているコンピュータであれば、インターネット・カフェや図書館などのコンピュータからも電子メ

ールの送受信が可能となるのである。

【電子メールの特徴】

電子メールには、従来の通信メディアにはない固有の特徴がある。代表的なものだけを取り上げておこう。第一の特徴が同報機能である。これまで、同じ内容の手紙を送る場合は、何枚もコピーするなどしてそれぞれに切手を貼って送る必要があった。しかし、電子メールでは、宛先に複数のアドレスを指定することが可能であり、一度にたくさんの人に同じ内容のメールを送信することができる。

第二の特徴は、返事を書く場合に、受信したメールの内容を簡単に引用できる点である。特に、ビジネス文書では、同時に多数のメールを送受信するので、受け取ったメールの内容を全部引用しておくことが正確な情報の交換に必要なとなる。

第三の特徴は、画像ファイルをメールに添付して送信することができる点である。第四の特徴は、転送機能である。受信したメールを別の人に簡単に転送することができる。また、転送サービスをしているプロバイダの場合は、会社やプライベートなどの複数のメールアドレスに届いたメー

ルを自動的に指定したひとつのアドレスへ転送してくれる。

第五の特徴は、メール・マガジンによって情報を収集できる点である。小泉首相のメール・マガジンが話題になったが、インターネットでは企業や個人が発行する様々なメール・マガジンがあり、その多くは無料である。登録しておけば電子メールで情報を得ることができる。

第六の特徴は、メーリング・リストである。あるひとつのメールアドレスに送信すると、登録している人全員に自動的にメールが送信される機能である。サークル内などで特定のテーマについて意見を交換したり、連絡をする場合などに有効である。

第七の特徴は、匿名アドレスである。前述したウェブ・メールを利用すれば、親しい友だちには元々のメールアドレスを教え、それほど親しくない人やチャットで知り合った人にはウェブ・メールのアドレスを教え、匿名性を保持することができる。

その他に、インスタント・メッセンジャーと呼ばれるソフトがある。今では数十種類を越えるソフトが登場し人気を集めている。人気の秘密は、いま友だちがインターネットに接続しているかどうか分かり、すぐにメッセージを送り合ったりチャットが始められるところにある。

このような特徴をもつ電子メールは、世間の予想を遥かに越える新しい世界を生み出しつつある。それについては、本書の他の論考に詳しいので、ここでは、電子メールが持つ可能性と危険性について触れ、まとめにかえたい。

●電子メールが拓く世界

最近では、年賀状の代わりに電子メールを利用する人が増えている。アニメーションや音楽入りの楽しい年賀メールが登場している。また、お祝いや四季折々の挨拶にも利用され始めている。同報機能を利用すれば、一度にたくさんの人に年賀メールを送信できる。それに、たとえ地球の裏側でも即座に配信されるので、元旦の朝に年賀状が書ける。そして、特別な日だけでなく、日常のコミュニケーションでも、電子メール利用は増えつつある。

しかし、他方で、相手の意志とは関係なく無差別に送られてくるメールがある。懸賞に応募したり、アンケート等に答えるためにメールを送信したりしていると、突然、アダルトサイトの紹介や様々なビジネス情報、宣伝や勧誘のメールが送られてくる。それらはスパム (SPAM) メールと呼ばれる。また、転送を要請する回覧メールがある。「こ

のメールを十人の友だちに転送すれば幸せになれる」といったたぐいの「幸福の手紙」や逆の「不幸の手紙」などがその代表である。それらは、チェーン(chain)・メールと呼ばれる。受け取る人が迷惑であるだけでなく、善意のメールであっても、ねずみ講式に拡大する転送メールは、瞬間に膨大な量の負荷をネットワークに課することになる。

このような光と影の部分の合わせ持ちながら、電子メールは家族の姿にも影響を与え始めている。

フエザー (Frank Feather, future consumer. com.: The webolution of shopping to 2010¹ Toronto, Warwick Publishing Inc., 2000) は、近年のインターネットの普及により核家族の姿が変化しつつあると指摘する。今日の北米の家族は、典型的な核家族とは異なり、人々のネットワークとなつていくという。核家族はインターネットにより拡大され、離れて暮らしている親類たちがインターネットを利用して、子どもの誕生を祝ったり、結婚式や再会の予定を立てたり、死を悲しんだりしている。そして、すでにホームページや電子メールが、年末の挨拶に利用され、家族の写真や結婚アルバムを交換するために利用されている。さらに、一緒にいる時間の少ない家族のメンバーは、電子メールによってコミュニケーションを取り合っているのである。

こうしてフエザーは、インターネットにより擬似的な拡大家族が生まれていると指摘した。現代家族は、まさにインターネットでつながったデジタル・ファミリーに移行しつつあると主張しているのである。

「さまざまなメディアが空間的な制約を取り除いて、対人コミュニケーションの範囲を拡大・分散した今日、人間同士の話し合いに『同じ場所にいる』という条件が不要になった」と指摘したのはガンバートだった(G. ガンバート『メディアの時代』新潮選書、一九九〇)。そして、彼は、そこにうまれる社会を「地図にないコミュニケーション」と呼んだ。しかし、考えてみれば社会という存在自体も目には見えないし、手で触れることもできない。インターネットの中を飛びかう電子メールは、現代社会に目に見えないもうひとつの世界を作り出し始めていると言える。

本稿では電子メールについて考察してきた。社会全体から見れば、電子メールの存在など小さなものかもしれない。しかし、そんな小さな存在がきっかけとなって、社会が大きく変わることも忘れてはならない。なぜなら、私たちは、まさに今そのような変化の現場に立ち会っているからである。